

山武地域の医療をよくする会

2007年4月 代表 須河内 省三

〒283-0005 東金市田間84-4 TEL 0475-52-7266



「医師確保予算を10倍、女性外来の継続、新病院に最大限支援」と県回答 会が「山武の医療守って」と50人で要請

山武地域の医療をよくする会は、3月20日、県の病院局や健康福祉政策課、医療整備課に「医師確保、山武の医療を守って」と8,655筆(累計29,802筆)



の住民署名を提出し50人で要請しました。

県は、医師不足による東金病院を「4月に内科医を6人にする」「複数の医師が確保できれば産婦人科を再開する」「女性外来は今までどおりやる」「医療センターができるまでは病院を守る」と回答しました。また、「新たに医師確保事業を行い予算を10倍にした」としました。

そして、県の新病院計画への参加の要求には「計画には参加しないが、市町の財政負担を超えない形で最大限の財政支援をする」と回答しました。

これは、この間の会の運動が県を動かし、東金病院の医師補充や女性外来の継続、医師確保予算を増やさせ、新病院建設への最大限の支援を表明させるなど、要求を前進させたと言えます。

しかし、県は医師確保や東金病院再生の具体策を示せず、新病院計画への参加を拒むなど、現在や将来の山武地域の医療を守る責任を表明していません。

要請参加者は、今後も県に対し地域医療を守る責任を追及するとともに、地元市町長などへの働きかけを強め、さらに山武の医療を守る世論と運動を盛り上げることを確認しました。

会の運動が県市町を動かしています 署名ご協力ありがとうございました。

須河内省三 よくする会代表

会員をはじめ、多くの皆様から署名にご協力をいただきありがとうございました。

3年前に運動をスタートした頃は、地元市町では1議会での賛同でしたが、今では5議会で賛同をいただき県に意見書が出されています。

私たちの運動が医師確保など県の重い腰を動かしています。

さらに運動の輪を広げ、山武の医療を守りましょう。

医療学習会&会の総会

とき 6月17日(日)

1時受付、1時半開会

ばしょ

東金アリーナ

(詳細は後日にお知らせします)

医療センター計画策定委座長が辞任 新座長に村上信乃氏(前旭中央病院長)

3月26日、山武地域医療センター計画策定委員会が開かれ、2月に首長合意した再修正案や新検討組織の設置、座長の交代などを確認しました。出席委員からは「議会や住民の意見を取り入れ透明性のある会議にしてほしい」「医師、看護師の確保が大事」などが出されました。辞任した秋葉座長は、「住民の意思とは異なる計画を、これ以上推進できない」としています。こうした意見は、これまで会が要求してきたものです。

行政組合や県が、住民の声を聞き、計画を見直すよう改めて求めましょう。

裏面に県要請結果詳報

3. 20 県要請結果

県は、山武住民の声を聞いて



会の質問	県の回答
1. 東金病院の存続充実、 医師・看護師の確保	
① 4月に産婦人科休診、女性外来を廃止するの。どんな取り組みをしてきたのか。	産婦人科医は2名の内、1名が定年で1名が中途退職のため4月に休診する。女性外来は今までどおりやる。千葉大や関東の医大に当たったが確保できていない。
②安心して子供が産める地域にするには県立病院の産婦人科の早急な復活が必要。再開の見通しを示せ。	県内、全国的に少ない状況だ。最低、2名の医師が確保できれば再開したい。
③県は、東金病院をセンター建設までは存続・充実するとしてきた。病院局長は早期廃止が第一の選択肢というが発言を撤回し再生に全力をあげるべきだかどうか。	病院局長が個人的にレポートにまとめた。8億から9億円の赤字で今後、黒字にならない。経営だけを考えれば廃止が考えられるとしたもの。医療センター建設までは廃止できない方針で今すぐに廃止はない。規模を落とさないでやっていく。4月から内科医は4名の正規と2名の研修生の6名体制でやる。
④県内の公立病院の医師や看護師不足は深刻だ。県の医師や看護師確保事業で解消できるのか。見通しを示せ。	16年12月現在、県内の医師従事者数は8818名で313名の増、山武は204人で14年比で11人増。山武の自治体病院では20名の減。全体的には増だが、自治体病院が医師不足である。19年度県医師確保事業を前年度の1千万円から10倍の1億3千万円を確保した。新たに、短期策では後期臨床研修生に毎月20万円の貸付、県外から指導医を招へいする。長期策では私立医大生が千葉大の授業料並となる就学金の貸付を行う。なお、県内自治体病院への勤務で返済を免除する。看護師は、山武は1093名。自治体病院は横ばいか減である。給料アップは困難なので在院日数の短縮で対応したい。
2. 山武地域医療センター計画	
⑤3月12日、山武地域の首長から県に長生地域の計画参加の働きかけ、財政支援などの要望があった。長生地域の参加の見通しがあるのか。計画に参加せず重い住民負担だけ残ることがないのか。	長生地域も救急医療の問題がある。一部首長は興味を持っている。山武の首長とも話して呼びかけたい。
⑥山武と長生地域は広域で医療圏も違う。山武の住民は救急医療が整った新病院の建設を強く望んでいる。県内の広域医療や救急など政策医療に責任をもつ県が計画に参加すべきではないか。県は山武の医療をどう守るのか。	医療圏は19年度中に保健医療計画の見直し作業を行うので検討される可能性がある。県の計画参加は、6市町長から2月13日に地元主体で県の支援をしてほしいと言われている。計画や運営への参加はしない。初期医療は市町村で持つ。(県は)直接ではないが医療を守る。
⑦県は新病院建設に当たって、「地元市町村の財政負担を超えない形で最大限の財政支援を検討する」としている。支援に当たっての基本的な考え方、建設費・運営費など具体的な支援内容を示せ。	地元市町村の財政負担を超えない形で最大限の財政支援を検討するとしている。具体的には(地元市町村の)財政シュミレーションを見て検討したい。病院の機能など具体的計画が見えていない中で支援内容を示せない。魅力ある新病院をこれから検討される。スタッフ確保を含め全面的に支援したい。